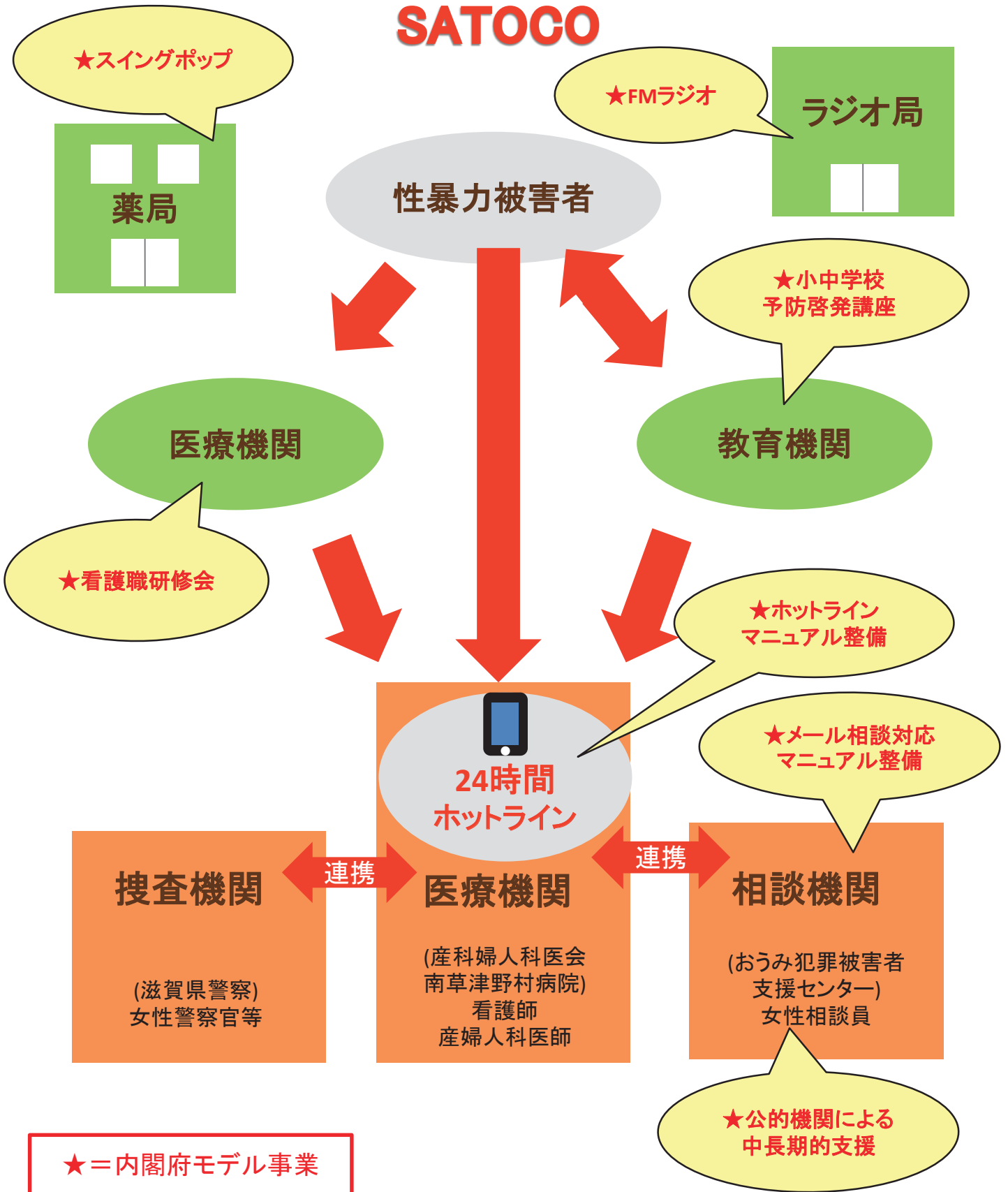


滋賀県

# 性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖 SATOCO



## 滋賀県：性暴力被害者支援看護職研修会（被害者支援体制の構築・強化）

### 1. 実施前の課題

県内各病院で勤務する看護職が、来院した性暴力被害者に的確に対応するとともに、ワンストップ支援に繋ぐことができるよう、ワンストップ支援における看護職の役割への理解を深める必要がある。

また、24時間ホットライン体制は、拠点病院の看護師が携帯電話を常時携帯して成り立っており、対応可能看護師を開設当初(H26.4)の2名から6名に増員しているものの、相当な負担を強いている現状である。

このため、今後も24時間ホットライン体制をはじめ、ワンストップ支援の仕組みを維持するため、性暴力被害者支援の理解を深めるとともに、看護職の担い手を確保・育成することが急務である。

### 2. 実施による成果目標

- ・ 研修参加目標100名
- ・ SATOCOの取組の周知
- ・ 24時間ホットライン対応看護職の担い手を確保・育成

### 3. 実施結果

#### ○ 性暴力被害者支援のための看護職員研修会

～性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖 SATOCO とは～

日 時：平成28年9月10日(土)13:00～15:45

場 所：大津市民会館

参加者：74名

プログラム：

#### (1) 「ワンストップ支援急性期看護ケアとは」DVD視聴

- ・ 警察から産婦人科への被害者の診察依頼
- ・ 性犯罪の実態と二次被害
- ・ 被害にあった女性が診察を受けるまでの看護師・助産師によるケア
- ・ 医師による診察
- ・ 診察後と帰宅に際するケア

#### (2) 講演

演題1 「魂の殺人事件に対する警察捜査」

講師 滋賀県警察本部刑事部捜査第一課 課長補佐 山本和彦 氏

演題2 「性暴力被害者に対する産婦人科医の対応」

「性暴力予防啓発のための性教育」

講師 滋賀県産科婦人科医会 副会長 野村哲哉 氏

演題3 「性暴力被害者支援の現場から」

講師 NPO法人おうみ犯罪被害者支援センター 理事 松村裕美 氏

○ 性暴力被害者支援のための看護職員研修会

～性暴力被害者支援看護職とは～

日 時：平成 28 年 11 月 19 日(土)13:30～15:30

場 所：草津市立まちづくりセンター

参加者：62 名

プログラム：講演

演題 「性暴力被害者支援看護職とは」～よりよいケアのために～

講師 東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科 リプロダクティブヘルス看護学 講師

NPO 法人女性の安全と健康のための支援教育センター

運営委員 三隅順子 氏

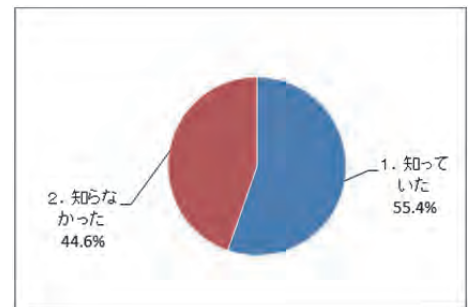
○ アンケート結果

(1)9 月 10 日

ア SATOCO の認知度

イ 満足度：非常に満足 55.4%、まあまあ満足 44.6%

ウ 理解度：よくわかった 75.0%、まあまあわかった 25.0%

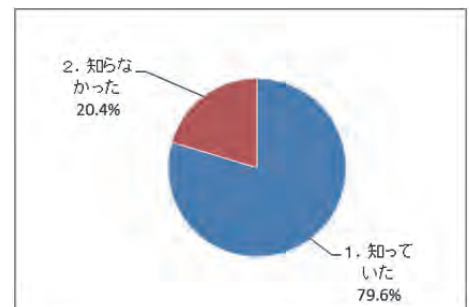


(2)11 月 19 日

ア SATOCO の認知度

イ 満足度：非常に満足 59.2%、まあまあ満足 38.8%

ウ 理解度：よくわかった 67.3%、まあまあわかった 30.6%



#### 4. 実施の成果

SATOCO の周知や理解が促進された。

○ アンケート結果抜粋

- ・ SATOCO があることは知っていましたが、事後フォローまで体系づけてされていること、仕組みがよくわかった。
- ・ SANE の増員が必要であると思った。
- ・ 24 時間いつでも対応していただける体制を知ることができ有意義であった。SANE にも興味をもつことができた。
- ・ 全ての人に「性の健康教育」という意識を本当に理解してほしい。
- ・ 性暴力被害への支援がよく分かった。

- ・ SANE の役割の再確認も出来、改めて病院拠点型の連携の素晴らしさを感じました。
- ・ DVD で実際の患者さんへの対応などがわかりイメージがつかえました。演習では、対応が難しいことを実感した。
- ・ SANE の担い手としてももう少し詳細を聞きたいとの申し出があった。(4人)

## 5. 実施後の課題（現状）

- ・ すべての医療機関において、二次的被害に配慮した相談対応が可能となるよう看護職員のスキルアップを図るとともに、SATOCO に適切に繋ぐことができるよう SATOCO の周知や連携強化が必要。
- ・ 24 時間ホットライン体制の安定運営のため、引き続き SANE 看護師の養成が必要。

## 滋賀県：公的機関による中長期的支援（相談支援機能の拡充・強化）

### 1. 実施前の課題

相談機関では、被害者が回復するまで中長期的な支援を実施しているが、性暴力被害者への支援は多種多様であり、相談員の対応だけでなく、関係機関と連携した支援（心理的支援、法的支援、生活支援など）が必要。

### 2. 実施による成果目標

専門機関と連携した心理的支援の実施により、被害者の一日も早い元の平穏な生活への復帰を支援する。

### 3. 実施結果

○ 公的機関による中長期的支援（心理的支援）の課題検証

① 心理的支援対応件数

7月6件、8月5件、9月12件、10月5件、11月3件、12月5件、計 36件

② 心理的支援に関するケース検討会議及び他機関との情報共有

7月11日 長浜市社会福祉協議会 専門員

・ 性被害者への地域的対応について

7月20日 県発達障害者支援センター 専門相談員

・ 発達特性に応じた対応について

7月25日 県障害福祉課

・ 障害者の性虐待、労働条件に関する虐待対応について

7月25日 東近江市社会福祉協議会 専門員

・ 性被害者の精神状況と日常生活支援について

8月19日 草津保健所他 関係者

・ 障害者被虐待者（性被害者）への関係機関の関わり

- 8月25日      おうみ犯罪被害者支援センター 臨床心理士、支援関係者
  - ・性被害者への心理的対応について
- 9月1日      湖南地域障害者支援センター 専門支援員
  - ・障害者被虐待者(性被害者)への日常生活支援について
- 9月20日     京都犯罪被害者支援センター 支援員
  - ・被害者へのカウンセリングについて
- 9月28日     カウンセラー、弁護士、被害者保護者同席の相談
  - ・加害者への対応と被害者本人の状況について
- 10月7日     カウンセラー、勤務先相談関係者、被害者本人
  - ・今後の生活と精神不安について
- 11月15日    被害者家族、勤務先産業医
  - ・産業医のできる心的支援について
- 11月21日    被害者勤務先心理士
  - ・勤務先責任者と心理責任者の立場について
- 12月6日     カウンセラー、支援員、警察署職員
  - ・今後の方針と被害者本人への支援について

### ③ 実施結果

- ・被害を受けたことにより心身に様々な影響が出ることに對して、関係機関と連携した中長期に渡る支援の必要性を再認識した。
- ・中でも大事なものは、心理的支援と法的支援に関わる機関との連携した支援である。
- ・被害者支援に特化した心理的支援ができる機関が、まだまだ県内で充実していないことが課題である。

## 4. 実施の成果

- ① 「カウンセリングの実施によって被害者が前に向いていく」と文献にも書かれているが、今回のモデル事業実施において、実際に毎回変わっていく被害者の姿を見て、早期からの心理的支援の必要性を再認識したケースがいくつもあった。
- ② 被害後、自責感の強さから顔も上げられず、ひたすら自分を責め続けていた人が、毎回のカウンセリングに通ってくる度に、顔が上がってきて、前に向き、表情が変わり、自信を取り戻した言葉が前向きに出るようになり、笑顔までも見せてくれるようになった。
- ③ 他機関との繋がり、紹介や引継で終わるのではなく、被害者のそばに支援センターの支援員がいて、他機関の支援後にはまた支援員が待っていてくれることで、被害者は安心して中長期の回復に繋がっていきける。

## 5. 実施後の課題（現状）

- ① 行政機関や警察による心理的支援は制度の枠があり、すべての被害者が受けられないことが課題である。

- ② 中長期的な被害者ニーズに対応するため心理的支援の必要性が実証されたが、民間の心理やカウンセリングには費用がかかるため、費用負担の軽減が課題である。

## 滋賀県：薬局店頭等におけるスイングポップによる広報周知（広報啓発の推進・強化）

### 1. 実施前の課題

強姦被害者は、医療機関や警察などへの相談を躊躇する一方、望まない妊娠や性感染症など、「からだ」の心配が残ることが推測される。

このため、望まない妊娠が心配で、妊娠検査薬による自己診断をする被害者に、安心して相談できる SATOCO があることを周知するため、県内薬局の妊娠検査薬の近辺に SATOCO 啓発スイングポップを設置して、SATOCO を周知する。

※H28.5 に実施した県政モニターアンケート（調査対象数=360 人）では、性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖 SATOCO の認知度は 6.9%

### 2. 実施による成果目標

- ・ 県薬剤師会員の薬局 550 店舗に SATOCO スイングポップを設置し、安心して相談できる SATOCO の周知を図る
- ・ 必要な支援にたどり着けるよう周知し、被害の潜在化を防ぐ

### 3. 実施結果

- ・ スイングポップの作成 750 個
- ・ 配布先  
県内薬局約 550 店舗  
(一般社団法人滋賀県薬剤師会の協力)  
滋賀県産科婦人科医会 160 会員  
行政、警察 40



### 4. 実施の成果

- ・ 気軽に立ち寄ることができる薬局に設置することで、多くの人々に SATOCO の周知が図れた。
- ・ 薬局で働いている薬剤師などにも SATOCO の周知が図れた。
- ・ スイングポップの設置にあたり、新聞（2社）にも取り上げられ、県民にも SATOCO の周知が図れた。

### 5. 実施後の課題（現状）

性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖 SATOCO は開設から 3 年が経過したが、引き続き効果的な周知広報が必要である。

## 滋賀県：小学校及び中学校を対象とした性暴力予防啓発講座（広報啓発の推進・強化）

### 1. 実施前の課題

性暴力被害者に対する支援は、これまで被害に遭った後にしか行われず、被害を未然に防止するための対策は行われていないのが現状である。

性暴力被害に巻き込まれない、また、性暴力を起こさないための性教育をできるだけ早期に実施することが求められるが、教育現場での性教育の考え方は、性暴力防止に向けた内容とはなっていない。そこで、モデル校を選定し、小学生、中学生および教員を対象として、性暴力予防の観点から性の健康教育を行うとともに、安心して相談できる SATOCO の周知を図る。

### 2. 実施による成果目標

- ・ 子どもたちが性暴力の被害者にも加害者にもならないための性の健康教育を先生方に知ってもらう。
- ・ 子どもたちへの性の健康教育を行う学校の開拓

### 3. 実施結果

#### ○ 予防啓発講座の実施

- (1) 栗東市立金勝小学校 H28. 11. 16（水）15:30-16:30 参加者 26人（全教員数30人）
- (2) 私立近江兄弟社小学校 H28. 11. 17（木）16:10-17:10 参加者 9人（全教員数15人）
- (3) 大津市立小・中学校生徒指導主任・主事連絡協議会 H28. 12. 1（木）15:00-16:00  
参加者 55人

#### ○ アンケート結果抜粋

##### (1) 栗東市立金勝小学校

- ・ ”性暴力”という、あまりなじみがないように感じていましたが、いつでも誰しものが被害に遭う可能性のあるもので、万が一あってしまった時は、その被害者を守っていくことがとても大切だと思いました。
- ・ 性被害に遭う年齢が低くなってきている今日なので、小学校でもこのような授業を子どもたちに受けてもらうことも必要だと感じました。
- ・ 授業形式で説明していただいたので、高学年に実践することを想像しながら受講した。
- ・ 加害者の約8割は、知っている人ということに驚きました。
- ・ 被害に遭ったことを大人に打ち明ける時が一番子どもたちにとって怖いということが印象的であった。

##### (2) 私立近江兄弟社小学校

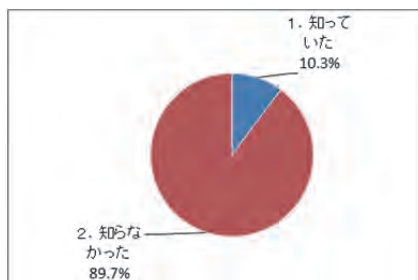
- ・ 予防啓発講座を実施する際に気にかけておかなければならないのは、本当に性被害を受けている子がいた場合を念頭におく必要がある。
- ・ 発達に合わせた小学校での性教育との関係。
- ・ 子どもから勇気を出してSOSの信号を発しているとき、それを受け止める位置に教師はいる。



「よく言ってくれたね、一緒に考えていこうねと」返せるようにならなければいけない。

(3) 大津市立小・中学校生徒指導主任・主事連絡協議会

ア SATOCO の認知度



イ アンケート結果抜粋

- ・ 小学校の性教育のあるべき姿、望まれる姿。
- ・ 産婦人科医と学校の繋がりにおいて、「性教育」というのはイメージにありませんでしたが、協力してもらえる部分もありそうでした。
- ・ 早期対応が必要なところ。病院、警察が連携しているところ。
- ・ 小中での性教育で、被害の予防を真剣に考える必要がある。具体的なことを正確に伝えることが大切。
- ・ 滋賀県でこんな取組がされていることを全然知りませんでした。積極的に広げていきたいと思います。

#### 4. 実施の成果

- ・ 子どもたちに身近な存在である教職員の方々に、安心して相談できる SATOCO の周知が図れた。
- ・ 小学校の早期の段階から子どもたちに「性の健康教育」を広めていくことが重要であることを啓発できた。

#### 5. 実施後の課題（現状）

- ・ 学校現場と SATOCO がどのような形で連携し、性暴力の予防ができるのか、連携方法の検討が必要である。
- ・ 学校における性教育との整合性が課題である。

### 滋賀県：FM ラジオ番組による SATOCO 周知（広報啓発の推進・強化）

#### 1. 実施前の課題

SATOCO の周知は、SATOCO フォーラム、街頭啓発および SATOCO カード配布など、機会あるごとに実施しているが、開設から 2 年が経過したものの、まだまだ一般的に広く SATOCO が知られていない。

※平成 28 年 5 月実施県政モニターアンケート（調査対象数=360）

SATOCO の認知度

①知っている… 25人(6.9%)

②知らない… 335人(93.1%)

このため、性被害に遭った被害者がどこに相談したらいいかわからず、適切な支援を受けられていない恐れがある。そこで、勉強・運転・家事など何かをしながら聴取する人が多く、生活に密着した媒体であるラジオ広告により、SATOCOの周知を図る。

## 2. 実施による成果目標

安心して相談できる SATOCO の周知による相談件数の増加

## 3. 実施結果

エフエムしが「e-radio LAKESIDE FM77.0 style!」

① H28.8.30 南草津野村病院 看護部長、看護師長

- ・ 「SATOCO」とはどのような取り組みなのか
- ・ 具体的にどのようなことを「性暴力」というのか
- ・ 「性暴力」を受けた場合、まずはどうしたらいいのか
- ・ 看護師としての支援は

【<http://style.e-radio.jp/d2016-08-30.html>】

② H28.9.20 認定NPO法人おうみ犯罪被害者支援センター 理事・支援局長

- ・ ワンストップによる途切れない支援とは
- ・ 心身の回復に向けて、相談員からどのような支援を受けられるのか
- ・ 電話・面接による相談、弁護士や臨床心理士による専門相談、付添支援など様々な支援とは

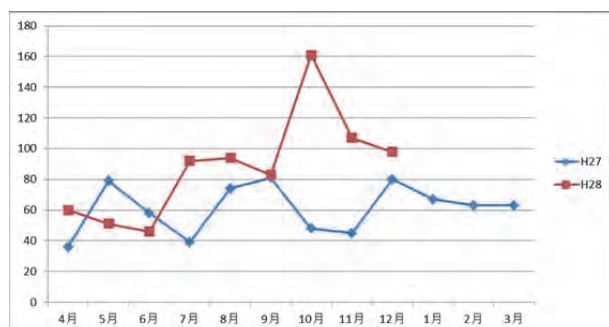
【<http://style.e-radio.jp/e1291844.html>】

## 4. 実施の成果

- ・ SATOCO周知番組放送後、FMラジオ局のホームページブログに放送内容を掲載。放送月の1ヶ月間における各番組ページ閲覧平均よりも、放送日の閲覧は高く、リスナーにSATOCOの周知が図れた。  
放送日 8.30→対月平均 162%      9.20→対月平均 156%

- ・ 放送後における10月の相談件数161件は、平成28年度上半期月平均相談件数71件の約2.3倍と増加するとともに、12月時点で昨年1年間を上回る相談件数となっている。

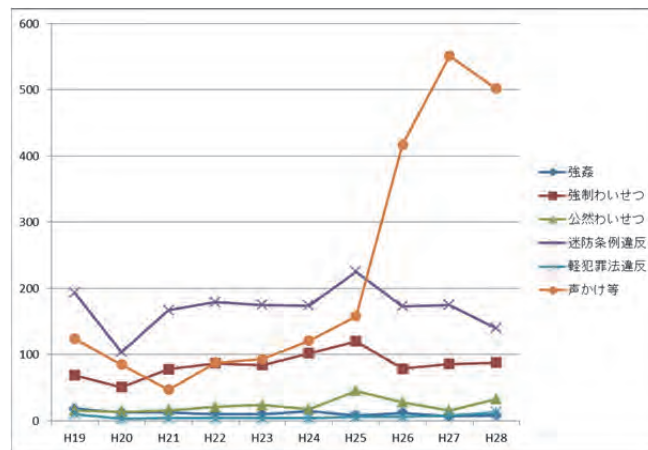
◎SATOCO相談件数の月別推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H27	36	79	58	39	74	81	48	45	80	67	63	63	733
H28	60	51	46	92	94	83	161	107	98				792

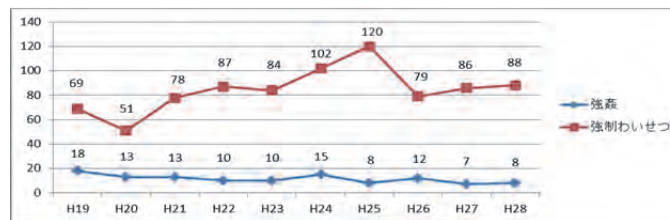
## 5. 実施後の課題（現状）

- 県内の強姦・強制わいせつの犯罪認知件数は約90件で、高止まりの状況にあり、また、性犯罪の前兆となる女性等に対する声かけつきまとい等の事案が増加しており、引き続き安心して相談できるSATOCOの周知が必要である。



※ 女性等に対する声かけ等の事案の件数について、H25以前は、捜査一課報告の声かけ事案のみの件数で、H26以降は、性犯罪の前兆と思われる事案の届出件数を含めた件数。

抜粋



- 相談件数の増加に伴い看護師・相談員の負担が増加しているため、相談体制の強化や、支援者の心的ストレス・精神的疲労に対する受傷対策が必要である。